

事後評価シート

調査研究課題名	中国に進出している中小物流事業者の実態に関する調査研究
担当者	主任研究官 久保麻紀子、研究官 熊坂祐一、研究官 加藤賢 前研究官 渡邊裕樹
① 当初目標と目標達成度	<p>本調査研究は、中小企業が大半を占める我が国物流事業者が今後中国に進出する際に留意すべきポイントを整理し、企業の海外進出によるアジアの成長力の取り込みに資することを目的として開始した。</p> <p>本調査研究の成果として、中国市場においてサービスを展開する日系中小物流事業者の進出から事業拡大に至る成長プロセスや、それぞれの成長段階における経営機能の充足方策、組織のマネジメント手法等について分析、とりまとめており、当初の目標を達成しているものとする。</p>
② 調査研究内容の妥当性	<p>本調査研究では、著しい経済発展を背景に物流需要が増加し続け、日系中小物流企業にとっても進出の検討対象となっていながらも、これまで情報が不足していた日系中小物流企業の進出及び事業展開に関する情報について、進出や事業展開のプロセスごとに分析、とりまとめたものである。調査の方向性については、企業の中国進出や企業の成長プロセス等に関する幅広い文献を参考とし、中国ビジネスに関する有識者等の意見も参考としながら決定した。</p> <p>本調査研究の結果は、中国を含め新興国に進出を検討する中小物流事業者や、日系物流事業者のアジア展開を支援する政策部局にとって、中国における物流事業の実態を把握する上で有益な情報となっている。</p>
③ 調査研究の仕組みの妥当性	<p>調査研究を進める過程で、日通総研主任コンサルタント 陳麗梅氏、日本能率協会シニア・コンサルタント 池田篤彦氏、一橋大学大学院教授 根本敏則氏等有識者より、調査研究の進め方、アンケート、ヒアリングの設問の妥当性等や、その結果の評価のあり方についてご意見・ご助言をいただいた。</p>
④ 成果と活用	<p>研究成果を当研究所のホームページで広く公表すると共に、政策部局の主催する事業者勉強会等の場においてプレゼンを行う等により、成果を幅広く周知することを考えている。</p>
⑤ その他	<p>調査研究内容を PRI Review 47号・48号に掲載するとともに、当研究所が主催した平成23年度研究発表会等においても成果の一部について報告を行っている。</p>